

「高円宮杯全日本中学校英語暗唱弁論大会」を終えて

都城市立妻ヶ丘中学校 3年5組 アブルハサン・サキナ

私がこの英語スピーチを書いたきっかけは、アフガニスタンの子どもたちのためでした。戦争や差別の中で苦しみ、悲しみ、学校に通うことも許されていない、私の故郷の少女たちのことを伝えたかったのです。この原稿は、元々学校の文化祭で、先生方や友達の前で読むために書いたものでした。当時の私は日本語もまだ十分ではなく、弁論大会についてもよく知りませんでした。ただ自分の思いを学校で伝えられたらそれでいい、そう思っていました。しかし、地区大会、県大会へと進む中でこのスピーチが学校だけでなく、もっと多くの人に届くものになっていきました。そして宮崎県で1位となり、全国大会に出場できました。私は家に閉じ込められ、学校に行くことも未来を描くこともできないアフガニスタンの女の子たちの思いを、宮崎から東京へそして日本全国へと届けました。また、アフガニスタンの人々を助け続け、命を懸けて活動し、無実のまま亡くなられた日本人医師・中村哲先生の存在も伝えました。全国大会は、様々な県から多くの中学生が参加して、とても緊張しました。しかし練習してきたことを信じて全身全霊で発表しました。結果としては、決勝ラウンドに進むことができませんでした。もっと多くの人に声を届けることができなかつたくやしさは今も心に残っています。

それでも私は自分自身を誇りに思っています。毎日、学校が襲撃されるかもしれない恐怖の中で通学しながらも、学び続け、医療の道を志してきた自分を。この弁論大会を通して、改めて決心しました。今年4月から看護科に進学する予定です。今とても幸せであり、前向きに学習しています。将来は、中村哲先生のように、医療をとおして日本の人々、そして世界の人々を支えられる存在になります。弁論大会を通して自分の考えをまっすぐわかりやすく、熱意をもって伝える大切さを学びました。これからも、祖国の明るい未来の為に自分の考えを発信し続けます。この経験は私の人生の宝物なので、後輩の皆さんもぜひ挑戦してもらいたいと考えています。この大会に参加する貴重な機会をいただき、ありがとうございました。